

令和6年度第1回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会 会議録

日時	令和6年8月28日（水） 午後2時～午後3時30分
場所	旭川市彫刻美術館 研修室
出席者	<委員> 高橋健史，西村徳清，野上義秀，岩永啓司，南部正人，村田典子，成田伸一，間藤洋子 <彫刻美術館> 佐藤社会教育部長，坂本文化振興課長，高橋彫刻美術館長，川田
会議の公開又は非公開の別	公開
傍聴者数	0人
会議の内容（議題）	1 令和5年度事業報告について 2 令和6年度事業計画について 以下の会議録のとおり
会議資料	・令和5年度事業報告について（PDF） ・令和6年度事業計画について（PDF）

【会議の内容】

1 開会

2 社会教育部長挨拶

3 会長・副会長選出

（南部委員を会長に、岩永委員を副会長に互選により選出した。）

以下，南部会長の進行により，議事を審議する。

4（1） 議事1「令和5年度事業報告について」

（2） 議事2「令和6年度事業計画について」

事務局から一括して報告，説明を行い，これに関する質疑応答は次のとおり

●会長

ただいま事務局より令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画についてまとめて説明が
ありましたが，御質問・御意見がありましたら御発言ください。

●委員

3 ページ目の彫刻巡回展示事業について、特別支援校でもこの事業の対象になったということで大変好評だとのこと、引き続きやっていただきたい。

●事務局

今年は特別支援校での巡回展示を実施することができ、今後も調整がつけば実施したいと考えている。

●委員

盲学校での授業は実際に彫刻に触れたりするのか。

●事務局

触れられる授業を実施している。

●委員

なかなか美術館だと作品に触ることはできないと思うが。

●事務局

展示作品には、基本的には触れないようお願いしている。授業で彫刻作品に触れることが出来るのは子どもたちにとってよい経験になっていると言えると思う。

●委員

盲学校等での出前授業に関わって、普段交流していない生徒に授業をすることになり、盲学校の子どもたちに、すぐ触らせるのではなく、「今ここになにがありますよ」、「手を持って良いかい」と聞くなど作法があると聞いた。過去の盲学校での出前授業のことが分からない状態になってしまっているので、今後はノウハウ等の積み上げをし、共有できる仕組みを考えていただきたい。

●会長

特別支援校での授業のノウハウが蓄積されると非常に有意義なものになると思う。対応した先生や学芸員には蓄積されるが、それが継続されることはなかなかない。この後も聴覚障害の子どもたちへの授業があると聞いているので、その時の様子をぜひ残してほしい。そうすれば、新たに担当する先生も関わりやすくなると思う。特別支援校での出前授業は大変な部分もあるが、画像を残しておくとか担当者の名前を残しておくとか、そういった形で今後担当する先生方のために記録を残してほしい。

●委員

2 ページ目、令和4年度の事業内容で、旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー（以下「ステーションギャラリー」という。）の方で織田コレクションを何度も実施されているが、旭川市彫刻美術館で実施する予定はあるか。

●事務局

旭川市彫刻美術館は彫刻専門の美術館であり、ステーションギャラリーはもう少し広い意味で、旭川の玄関口という形で、彫刻だけでなく様々な展示をする美術館としているため、織田コレクションはステーションギャラリーで開催し、旭川市彫刻美術館では彫刻の企画

展示を行っている。

●委員

2019年に本郷新記念札幌彫刻美術館で織田コレクションの展示会が開催されて、好評だったと聞いた。ステーションギャラリーはスペースが狭く、ボリュームはあるが少し見にくいので、もう少し広く展示されても良いと思う。椅子も彫刻の一種と考えられているので、できればこういう歴史ある建物の中でゆったり見たい。ステーションギャラリーだけでなく、旭川市彫刻美術館で見る機会があればと思う。

●委員

関連して、ステーションギャラリーや、旭川市民文化会館、旭川市民ギャラリーによく行くのだが、各施設を使用する際に縛りはあるのか。

●事務局

ステーションギャラリーは貸し館ではなく、主催は市（旭川市彫刻美術館）であるが、旭川市民ギャラリーは市民団体等に貸しており、ある程度自由に使っている。入場料を取る展示であれば、旭川市民ギャラリーの使用料は割り増しになる。

●会長

令和6年度の事業計画に関わって、旭川地域連携アートプロジェクトというのがあり、北海道立旭川美術館、旭川市彫刻美術館、旭川市教育研究会（以下「市教研」という。）図工・美術部、北海道教育大学旭川校がプロジェクト員となっていて、主に中学校小学校の生徒児童にプログラムを提供している。ただ、中身がパターン化してきており、新規性のある、魅力のあるものを新たに生み出すのが難しいが、継続してやっている。

●委員

5ページ、野外彫刻修復等の実施状況について、令和3年度に2点修復されているが、どんな修復だったのか。

●事務局

「家族」については、剥離等の修復だったかと思う。「開拓のイメージ」については、高所にある蹄鉄等の点検調査を実施し、今のところ問題ない、大規模な修繕は必要ないということを確認した。

●委員

先月、制作者の中井延也先生に師事した作家と実見した。目の届く範囲のところで、少し樹脂系のもので埋めているような痕跡がみられる。それ以外にも、素材はコールテン鋼という耐候性の鉄を使用しており、その鉄が使用されてから半世紀くらい経つが、専門的な研究によると万能ではないという報告があった。この作品についても層状のさびが各所にあり、付属物のうち、特に人型のところが空洞になっており、中に水がたまらないように穴が開いているが、雨水がたまって中の方から腐食が進行している様子が目の届くところで確認できた。専門家に見てもらう機会があれば、現状の強度等が分かると思う。令和3年度の点検から2年以上経過しているので、引き続き定期的に見ることは、あの作品に関

しては安全上重要だと思う。札幌の同じ素材の彫刻は解体されているので、監視を続けてほしい。

今年度修復するものについてはどちらの業者に依頼したのか。

●事務局

今年度は「トランペットのおんな」を修復することは決まっているが、業者は未定。

●委員

先ほどのノウハウの継承という点から、市の事業的に難しいとは思いますが、この作品を定期的に見て現状を把握されている専門業者と連携していないと、何かあった時に、どれくらいの予算が必要なのか、どれくらいの応急処置で済むのかなどがわからず、急に頼まれても受けてくれる業者は少ないと思う。屋外彫刻調査保存研究会があって、研究者が集まって、活動されている会だが、その辺とうまくつながることができれば良いと思う。私も力になればと思う。

●事務局

旭川彫刻サポート隊（以下「サポート隊」という。）の方々から、野外彫刻の状態について報告はあるが、財源的な問題等があり、なかなか修復できていない。「開拓のイメージ」については令和3年度に点検した。しかし、本来的には定期的に確認する事業があればよいとは思っているものの、財政的になかなか厳しい状況である。どれを直すのか、又は点検するのか、優先度を考えながら実施したい。

●委員

財源確保の点で言うと、長野県には中原悌二郎とゆかりの深い荻原礫山の美術館があり、そちらは民間の美術館で、市民の方たちの作品収集から開館の気運が高まったと聞いている。昨年くらいに大規模な老朽化が見つかって、全国的なクラウドファンディングを実施し、目標額を達成して建物の修繕ができた。その辺のノウハウを礫山美術館と連携を取ることによって何かできそうだし、支援者とのセッティングというのも自分も助言できたと思う。

●事務局

お聞きしながら、検討したい。

●会長

全体の事業として、新規事業の立ち上げは予算的になかなか難しい状況にあって、既存のものをどう維持していくか、どう管理していくかというところにウエイトを置く状況であり、その辺りを丁寧に実施していくだけでも成果が上がっていくのではないかな。

今話のあったクラウドファンディングなどはあるが、まずはどういう状態になっているのかをどういう風に確認するのが大切だと思う。

●事務局

財源の部分で、クラウドファンディングではないが、旭川市文化芸術振興基金というものがある。彫刻に特化したものではないが、旭川市彫刻美術館に関する様々な事業の財源としても活用してきた。ここ最近、旭川市文化芸術振興基金の寄附がかなり減ってきている

ため、今一度 PR に努め、様々なパンフレットに旭川市文化芸術振興基金のホームページにアクセスできる二次元コードを載せるなど、この基金を知ってもらえるように取り組んでいる。旭川市彫刻美術館を含め、もっと知っていただけるように PR して財源確保に努めたい。

●会長

PR の話だが、X を見て、一定数の投稿があり、有り難く思っている。

●委員

X の投稿について、今は彫刻教室の募集等の投稿をメインにされている。旅行の行き先を決めたり、情報を集める時に、きれいな風景や建物の写真を参考にして決めることが多いので、この美術館の魅力である建物の美しさを活かした写真を SNS で多く発信できないか。幻想的に美しく写っている写真であれば、ちょっと行ってみようと思う人も出てくるだろう。プロの写真家をお願い出来たらいいが、予算的に限界があると思うので、雪の中の写真とか、夕焼けの写真とか、そういった写真の SNS での発信を検討していただきたい。

●事務局

過日、俳優のカレンダー撮影や BS 番組の撮影があり、スタッフから白くて素敵な建物との評価を受けた。

●委員

より多くの人にこの建物を知ってほしい。特に、外国人の方々も見れば感動すると思う。旭川市彫刻美術館を知らないという人が多く、知っていたら行ったのという東京の友人がいる。そもそも知らなければ選択肢にも入らないので、建物の魅力を発信していただきたい。

●会長

今の話題はかなり前から出ていて、その中で誰を対象とした美術館なのかという部分がある。インバウンドを取り込んでうんぬんというよりは、市民に対して、というところで、現状進めていくこととしていて、その中で今の状態がある。たくさん人が来てくれることを旭川市彫刻美術館が望んでいるのかという根本的なところがある。

●委員

美術館を旅行に組み込むというのは世界的にもトレンドになっている。旭川の顔になる建物なので、観光客に見ていただくのも一つの手段だと思う。

●会長

それにはみなさん同意はしているが、どう具体化していくかというところ。予算の問題があり、SNS や動画をアップするとかが現実的であるというところまでは去年も話をしてしたが、その結果として今の X の状態がある。その先へ行くのかということ。

学校教育では、北海道立旭川美術館に中学生 400 人ほどが夏の間に来館し作品を見てもらう取組をしている。旭川市彫刻美術館も、子どもたち対象の事業はあるが、北海道立旭川美術館と規模や方法が違う。巡回展示で学校に彫刻を貸出しをしていて、こちらは実施校

の児童生徒の総数が 3,000～4,000 人ほど。

巡回展示や出前授業での子どもたちの反応はどうか。

●委員

映像で見るのと実物を見るのとでは、実際に匂いや質感を感じられるので、子どもたちの反応は違ってくる。現在神居中学校で巡回展示を実施しているが、夏休み中に作品が設置された。夏休みが明けて、なんのアナウンスもしていないのに、朝、子どもたちが騒いで見ていた。匂いがどうだとか、形がどうだとか、中学3年生でも反応があるので、事前の準備等は大変だが、彫刻が学校に設置されるというのは相当の効果がある。長い期間見れるというのもあって大変有り難い事業だと思う。

●会長

作品があって、それに人がついて、一緒に体験的に何かをするというのは、鑑賞する上で非常に良いことと感じる。それが上手くいっている。西村先生をはじめ、個人的な努力で成り立っていて、何人かの先生が協力してくれている。これがいつまで続くのかということところが課題で、今は上手くいっているが、いつまで続くのか、そこをしっかりと計画的に、どうやったら維持し続けられるのかを考えなければいけないと思う。

●委員

4 ページ目の野外彫刻維持管理事業について、ボランティアであるサポート隊の方々が市内に点在している野外彫刻の清掃をされていて、素晴らしいなと思っている。予算が限られているという話があったが、感謝の気持ちというか、感謝状の贈呈や、活動されている様子を広報するなどしているのか。色んな形でお礼をされているとは思いますが、どのようなことをされているのか。今年彫刻美術館が30周年で節目なので、何かあるといいと思った。

●事務局

1 回数百円ではあるが、謝礼は出している。また、2 年前には旭川市文化功労賞を贈呈しており、活動をもっとみなさんに知っていただくことにつながり、これからの活動に励みになったと思う。

●委員

ボランティアとはそもそも謝礼がでてしまうと自分の貢献度や自分の喜びが半減するという研究があって、一概に報酬目当てにボランティアに参加しているということでもないと思う。活動に1, 2 回参加させてもらっており、学生を引率していったが、新しく来た若い人と長く務められているボランティアの方々との交流が楽しいというか、そこで日々変化する景色と彫刻の見方を他者と共有することによって、ボランティアに参加する方たちのモチベーションがあると思う。先ほど話が出たように、加入者をいかに増やすかが問題なのかと思うと、参加してもらうことでしか喜びを理解してもらえないと思うので、現在の活動を多くの人に知ってもらうにはどうしたらいいだろうと考える。

●事務局

広報誌に募集記事は毎年掲載しているが、活動については過去に掲載したことがあるかもしれないが、直近での掲載はない。どこのボランティアにも言えることだが、高年齢化や若い人達、稼働年齢層の方々が少ないという状態。サポート隊としても独自の募集の工夫をしていただいている。先日、高校生2名が参加を決めてくれた。そういう子たちから少しずつ広まってくれたらと思う。

●委員

彫刻作品はサイズが大きいが、保管場所に困ってはいないのか。

●事務局

非常に困っている。そもそも美術館としての建物ではないため、収蔵庫といってもスペースのあるところに収蔵しているだけで、湿度や温度等の管理上の問題がある。ステーションギャラリーにも収蔵庫はあるが一杯になってきている。大きい作品の受け入れが難しい状態であり、収蔵場所については今後考えていかなければならない課題である。

●委員

建物的にはおそらく制限がある建物だと思う。先ほど写真の話もあったが、文化財でもあるこの建物自体が美術品だと思うので、そのことを活かせるよう、先ほどの意見にあったようにどんどんPRしたらよいのではないか。

●委員

市教研の社会科では旭川市博物館でバックヤードツアーをしてもらい、多くの先生方が参加しているが、先生方は収蔵庫を見るのを楽しみにしていて、旭川市の歴史のあるものを見て、授業に還元することができ、非常に有意義なものであった。そういったことを旭川市彫刻美術館でもできたらアピールにもなるし、楽しいのかなと思う。

●委員

市教研の美術科では旭川美術館にバックヤードツアーをしていただいた。どの程度の収蔵庫なのか、どんな感じで管理しているのかなどある程度分かっていたので依頼した。旭川市彫刻美術館はもともと収蔵に適したところではないので、そこをツアーするとなるとどうなるのか大変気になる。

●事務局

子どもたちが授業で来た時に、収蔵スペース等を見せた。バックヤードを見るという、子どもたちにとってなかなかできない体験ができたと思う。

●委員

修学旅行で小樽水族館を訪れ、表から見ると裏から見るというのをしてもらった。作品をどういう風に維持管理しているかという、裏の部分が見れるのは興味深いと思う。

●会長

バックヤードツアーは、作品がどのように保管されているかに加えて、どのような仕組みで美術館が維持され運営されているのか、どんな人が働いているのか等を理解するにはかなり有効なもの。地元の子たちへのバックヤードツアーの実施を進めていただきたい。

●委員

事業など、コロナ禍で制限のあったものが本当に以前の状態に戻るのかという話を委員就任当初の会議でしていた。今は元に戻ってきたと感じている。維持していくのは大変だと思うが、子どもたち向けの取組も沢山あり、戻ってきて良かったと感じている。

私は高校の通信制と定時制の美術の授業を担当していて、授業中に作品を作るのではなく、自宅で作って提出という内容。唯一彫刻の授業の時に野外の彫刻作品を写真に撮って提出するという課題を出しており、その時に野外彫刻たんさくマップを使わせていただいている。今はもう子どもたちはスマホを持っているので、データで野外彫刻たんさくマップを見てと言っているが、それだとピンポイントで、まだどの作品が好きか分からないのに写真撮る彫刻を探すのは難しいため、野外彫刻たんさくマップをコピーして渡している。作品の解説などもあり、全体が見えるので、生徒同士で「一番古いのどれ?」「買い物公園の猫おじさんいいよね。」と話しながら写真に撮る彫刻を探していて、すごく楽しそうにしている。私はいつでもここに来れるので問題ないが、なかなかこの野外彫刻たんさくマップを手に入れられるところがない。資料を見ると 2,000 部刷っていらっしやる。気になるのが、20〇〇年度版と記載されているが、情報更新はしているのか。

●事務局

情報が古くなるため更新している。サポート隊が作成しており、駅の自転車を借りるところが変わったとか、そういったところが変わっており、近年は彫刻自体の配置は変わっていない。

●委員

年度を書かなければ、前のものも置けるし、子どもたちに1人1冊渡せるくらいもらっていけるのかと思ったが、更新してとなると年度を書かないということは難しい。しかし、古いものの使い道も考えてはどうか。

●委員

彫刻フェスタが開催されていた時は野外彫刻の作成をしていたため、少しずつ作品が増えていた時期があったり、市役所に設置していた彫刻を移設したりと、動きがあった。今は休止状態なので変わっていない。

●委員

PDF ファイルなどでホームページからダウンロードできるのか。

●事務局

旭川市彫刻美術館のホームページからダウンロードできるようになっている。紙のものはすごく小さくて持ちやすいと好評であるが、リーフレットを置く棚には小さすぎるため、いろいろなところに設置できない。形を変えるのも1つだと思うが、この形が良いとの声もある。各所に設置するにはマップ専用の置き場所を作る必要があり、そこが課題である。

●委員

スマホでデータでという時代で、教科書もデジタル化という時代だが、地図を広げて見る

良さがあるので、紙のものをなくさないでほしい。

●委員

私は旭川市彫刻美術館の喫茶コーナーでボランティアをしており、コロナ前は毎日、コロナ以降は土日祝日のみ営業している。コロナが収束してからはお客様も増え、海外の方や道外の方が喫茶室も利用してくれるが、なかなか市民の方の利用は少ない。コーヒーを飲んでくださっている方たちにマップをお渡しすると、こんなものがあるなんて全然気付かなかったと仰る方もいるので、もう少しみなさんが目に付くようなところにマップを設置できたらいいと思う。最近珍しいと私が思ったのは、小学生の女の子2人が喫茶室の前でジュースを飲む飲まないと悩んでいて、最終的には水をお出しし、仲良く飲んで帰っていったこと。小さな子どもたちがお友達同士できてくれるのはすごく嬉しいと思った。

●会長

土日だけでも復活されたのは非常にありがたいことだと思っている。

●委員

google map で彫刻美術館を検索すると、評価が出る。建物が美しかったという評価はもちろん、コーヒーが美味しかったという評価が多い。ぜひカフェを続けていただきたい。

●委員

コーヒーの入れ方が自己流にならないよう、毎年1回研修をしている。美味しいと言っていただけて嬉しく思う、他の会員にも伝えたい。

●会長

個人的に全国の美術館を訪れているが、その時に美術館併設のレストランに行くのも楽しみ。そういう人は多いと思うので、ぜひ継続していただきたい。

●委員

ただボランティアの募集をしてもなかなか集まらなくなっており、旭川市の広報誌に募集記事を掲載してもらったが、1名しか応募がなかった。なかなかこの先続けるのが難しくなっている現状があり、土日祝日のみの営業でも、シフトの仕事をしている人は特になかなか毎月参加できないため、他の年配の会員でなんとか穴埋めしながら運営しているが、工夫しながら継続していきたい。

●会長

旭川市彫刻美術館に様々なお願いをすることに限界を今リアルに感じているところで、できるだけ自分たちの方でも関わって、協力させていただけることはさせていただいて、その中で自分たちだけでやるのも大変なので、周りも巻き込んでいければと思う。なによりも建物自体に魅力があるので、中の彫刻作品も非常に充実していて、収蔵されたばかり舟の作品（「Boat」中谷ミチコ作品）も素晴らしいもので、知っていたら見に来ると思う、知らないから来ないのであって、なんとか伝える方法を検討願いたい。

●委員

みなさんから御意見のあったボランティアの方々の活動や、みゅうずの方々の活動は、展

示作品や建物と同じくらい展示資源として有効なものだと思う。そういった方々に美術館の運営に貢献していただき、鑑賞ツアーをボランティアの目線から実施するなど、普段眺めていらっしゃる方からしか語れないこともあると思うので、そういったことで彫刻美術館の持つ魅力を今一度確認できたらと思う。

●会長

ありがとうございました。それでは本日の議事について、御承認をいただければと思いますが、いかがでしょうか。（一同承認）

これにて令和6年度第1回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会を閉会いたします。最後に事務局から連絡事項があればお願いいたします。

●事務局

本日は長時間にわたりありがとうございました。本日の会議録につきましては、事務局で作成後出席委員の皆様に御確認いただき、確定したいと思います。また確定後皆様に送付いたしますので御一読いただければと思います。本日は誠にありがとうございました。

5 閉会